

機会の平等、結果の平等

日本とアメリカ

民主教育の違い

市長 最近、小学校などの運動会で、一緒に手をつないでゴールに入らせたり、同じような速さの子供たちを競争させることがあるそうです。「どうしてですか」って聞いたら、「差をつけちゃいけないから」ってなんです。

長倉 そのような話は私もある方から伺いまして、どうしてそうなったのか、非常に不思議に思っていました。要するに、戦後入ってきたアメリカの民主教育というものを、取り違えたのです。機会が平等であるべきところを、結果が平等であることを民主教育だと解釈した点が大きな間違いだったと、思っています。そしてこれは、日本人が、日本の社会自身が平板的で、奥深く物事を考える習慣がなかったことのあらわれじゃないかと思えますね。

市長 うわべだけ模倣して、じっくり考えなかったのです。

長倉 戦後の民主教育とは、私に言わせれば平均化教育です。人間の能力を平凡化して均一にやらせてしまっ、そういう教育を日本でやっちゃったのです。

何かの能力に秀でた者がいても、能力を生かされず、逆に低い平均点に合わせられてしまいます。それでは、せっかくの能力も目の目を見ず、大きなチャンスもつかみ損ねてしまうかもしれません。もっとも、現在の教育は、平均的なレベルをあげるのには適しているという面もありますけどね。

長倉 平均的な学力や知識をレベルアップすることと、それぞれの個性を伸ばして、特色のある人をつくっていくことの二つの面が必要なのに、日本の戦後の民主教育は一方を切り捨ててしまったのです。その誤りの原因は、深くものを考えず、薄っぺらく民主教育というものをとらえてしまったことですね。

しかも機会の平均化を超えて、結果の平均化です。要するに、競争でも速く行った者が待っていて、手をつない



で一緒にゴールに入るといことですね。

市長 社会へ出た途端に競争にさらされるわけですからね。それでは、子供たちはとまどいを感じてしまうでしょう。教育を考える上で、これは大いに考えていかなければならないところですね。

長倉 アメリカの教育の基本的な原則は何かといいますが、二つあります。それは、独立と競争です。

ですから、アメリカの民主教育は、決して競争を妨げない、速く走ったら速くゴールに入っているんです。学力が進んで獨創性を発揮できるような能力を持った人は、どんなそれを伸ばしていく。フェアに競争して、自分の能力を十分発揮して、勝った者を大いに褒めてあげることがアメリカの社会の在り方だと思っんです。

市長 そうですね。そのようなアメリカの教育の在り方を、日本ではいつの間に取り違えてしまったんでしょね。

長倉 明治時代に、新しい学制を入れるときには、責任者の森有礼は、欧米の大学の学長などに手紙を書いて、意見や情報を集めるなど、新しい学校制度の構想を作り、それを信念を持って

れ合いではなくて、助け合って共に生きる、そんな美しい日本の文化が必要なんですね。

長倉 そして、妥協も必要なことです。相手のことも考えた複眼的視点で究極まで詰めて、あるところで、相手の立場も考えて妥協する。

これらを調和よくやるのが二十世紀の新しい文化をつくることにもなり、日本人が人類社会全体にとって指導性を発揮できる道だと思っっています。

自然の不思議を体験

自然に絶えず親しめる

環境で育ちました

市長 先生が育った、子供時代はどのような時代でしたか。

長倉 そうですね。愛鷹村という、愛鷹山のふもとに生まれ、山村といふところから生まれたものです。自然に親しむという点では恵まれたところでした。それから、人の行き来もあまりなく、静かな雰囲気、親しめるという、落ち着いた環境でした。

市長 自然に絶えず触



実行した。きちっと自分で考え、信念を持って実行したのです。戦後の改革ではそれができなかったのです。

助け合って共に生きる

個性や創造力を伸ばす沼津の教育

市長 私も、先生がおっしゃったような、独自性・獨創性を伸ばしていく教育が必要だと思います。沼津市では、主体的にものを考え行動できるような子供たちを育てるため、平成十二年度から「ちえづくり・ひとづくり・ぬまづの教育21」を進めています。各学校で具体的な実施内容を考え、

れることができ、自然の変化を絶えず肌で感じる事ができたんですね。

長倉 自然に親しむことが非常に大事だったと、私なりに思っています。魚釣りや、イナゴ捕りもやりました。自然に対していろいろ興味を持つもことになりました。自然とは随分うまくできています。自然とは随分うま自然の中の不思議さを身をもって体験できたことはよかったです。

今はそのような環境がなくなってきましたが、やはり、実際にいるんな体験をしてみることが重要なことだと思っっています。

市長 今でも沼津の中では、子供たちが田植えをし、収穫したら、親御さんがお餅について、みんなに振る舞うな



平成15年度から中高一貫教育を行う沼津市立沼津高等学校の新校舎イメージ図



大平小の田植え体験

地域色あふれた、特色ある取り組みを行っています。また、平成十三年度からは、幼稚園でも実施しています。

長倉 それは素晴らしいですね。それが自分の個性を伸ばせるような環境をつくって、教育を進めていくのが、本当の意味の民主教育ですからね。

市長 そうなんです。他にも沼津市では、中高六年間を通して、計画的・継続的にも考えることができるよう、平成十五年度から中高一貫教育を開始します。これによって、子供たち一人ひとりの個性や創造力が伸びていくと思っっています。

長倉 そうなっていくといふですね。日本がアメリカのような独立と競争の民主教育にならなかつたひとつには、稲作文化が背景にあつたからだと思っんです。どこかで病人が出たら、皆が協力してそこを耕し、稲作を続ける。そういうことが積み重なってきた日本の文化は、お互いが協力し合い、相手の立場を考えながら行動するといふことが特徴でした。これには、悪い面もありますが、どうも二十一世紀は、このような日本の文化が重要性を増すのではないかと、思っっています。

独立して競争することも大事ですが、助け合って共に生きることも必要なんです。

市長 今、日本ではアメリカ的な考え方の中で、競争するという面に重きを置きすぎているのかもしれない。

